



散る桜、残る桜も散る桜

江戸時代の僧侶、良寛和尚の辞世の句です。いのちが限られたものであることを示唆し、むやみに死を恐れることはない、いのちは巡り巡っていくものだと言ふ意味が込められています。私たちがよく使う「逝去」は、この世を通り過ぎるという意味だそうです。

カフェではいのちを見つめる対話の中で、「今日」がかけがえのないほど大切な一日であることを痛感するようになるのです。

樋野興夫

「種を蒔く人になりなさい」第5章より

花一輪カフェ 今後の予定

第36回カフェ

7月13日(土) 13:30~15:30

まちのナースステーション 参加費100円
八千代市萱田2247-20 八千代中央駅より
6分

駐車場ご利用のかたは事前にお知らせください。場所をおお教えいたします。

TEL 080-1344-1825

FAX 047-750-7506

golf320yukinko@softbank.ne.jp

代表 上田

自分らしく生きる

柳田 裕子



心身相関という言葉をご存知ですか。

「ココロとカラダは繋がっている」ということですが、心と体は相互に密接な関係にあるわけです。病という体に起こった変化が心にも変化をもたらせる。また、心の変化が体に影響をあたえたり。

がんという病と対峙する場合、治療や未来への希望や不安、投薬による体の不安定感など、とても苦しくなる時もありますよね。

八千代市のカフェ『花一輪』では、たまにヨガを取り入れています。ヨガは心を静かにする作業。いつも頑張っている皆様が心身を緩めて活力を生み出す時間。ヨガが得意としている心の平穏が、抗ストレス作用につながり不定愁訴の緩和につながり・・・そしてQOLの向上につながっていくことでしょう。

思いをつなぐ

佐々木 美保

今月初めに妹から一枚の写真が送られてきた。

そこにはリンドウ1輪を手に持ち、満面の笑みでうつっている母がいる。すぐに母に電話し話を聞くと、時々背丈を伸ばさずにすぐ花を咲かせてしまうものがあるらしい。今年1番咲きのリンドウをすぐ仏壇の父へ供えたとのこと。いつも農作業が始まる季節を楽しみにしていた父が、春を待たずにガンで亡くなって1年経つ。

田畑は全て父が主となりやっていた分、去年その全てを母と弟でやらなければいけなかった苦労は計り知れない。辞めようと思えば辞められたはずなのに、父の思い入れのある田畑を続けようと二人で決心してくれた事に胸がいっぱいになる。「今年は幾分か段取りも良くなった。」と二人。『思いを繋ぐ』事は想像以上に難しい事もあるが、父の遺した畑に今年も沢山のリンドウが咲きこぼれるのも、もう間もなくのようだ。

